

JUNKAN



循環研通信
No.62
2021 July

資本主義はどこに向かうべきか？—プロローグ—

循環研理事 山口民雄

資本主義が大きく変わろうとしている。しかしながら、転換後の到達像やそこに至るプロセスは必ずしも明確ではない。この大きな命題に循環研各位が考察され、本通信に投稿されることを強く願い「プロローグ」を書かせていただいた。私は経済学を系統的に学んだ経験はなく、書籍と日々のマスコミ情報、企業との対話がベースで、稚拙な分析と誤謬の山と批判されることを覚悟して想うことを書いていきたい。

●なぜ、マルクスや「資本論」に関心が寄せられたか

「人新世の『資本論』」がこの種の書籍にしては爆発的に売れ、当研究会においても読書会を開催した。購入読者の多くは若者で「新鮮だった」との声が多数寄せられていると聞く。本書の後期マルクスの「理論的大転換」の記述には新鮮さを感じることもないが、私を含め当研究会メンバー

の持った感想と大きな隔たりがあったと認識している。

一体彼らは何が新鮮だったのか。まず想起されるのが、ソ連邦解体以降、大学での『資本論』に関する講座に興味を失ったり、また講座自体も少なくなり接触する機会が少なかったためだ、ということだ。現実には多くの経済学部学生はポール・サミュエルソンの「経済学」を熱心に読んでいると聞く。しかし、岩手大学の齊藤彰教授は「マルクス経済学の教育にかんする一考察」（2019年12月）のなかで、「大学の専門教育課程におけるマルクス経済学原論は、けっして不人気な科目ではない」と言い切り、資本主義の矛盾が顕在化している今日、「『資本論』の講義を行う大学の『政治経済学』『社会経済学』あるいは『経済原論』という科目が、学生の目にとまらなはずはないのである」という。私のような非大学関係者の推察は外れている。

p1 資本主義はどこに向かうべきか？—プロローグ—

p6 「私の再エネライフ」 ささやかな自然エネルギーと暮らす

p7 温暖化対策ノート 2021（その2）

p10 環境俳句

p12 春夏秋冬

循環研理事 山口民雄

循環研理事 大島浩司

循環研理事 槌屋治紀

循環研理事 及川陽子

風月

第2は、1980年以降の新自由主義、グローバル資本主義、市場至上主義の弊害に対する根本的な批判とあるべき社会経済システムの提示がなかったためか、との推察である。しかし、この点も否である。2008年のリーマンショック以降、これら資本主義の批判の書は数多く発刊されており「目にとまらないはずはない」のである。いくつかを紹介するが「人新世の『資本論』」での多くの記述が既に指摘されている。

◆2008年刊：「資本主義はなぜ自壊したか」

中谷巖著

グローバル資本主義の片棒を担いだ著者が自戒の念を込めて「転向」を表明した書。新自由主義思想によるグローバル資本主義は、世界経済の不安定化、所得や富の格差拡大、地球環境汚染の加速、グローバルな食品汚染など人間社会に様々な「負の効果」をもたらした主犯人である、と断じている。また、新自由主義は共同体価値には何の重きも置かないと強く批判。そして、まず我々は「欲望の抑制」ということを学ばなければならないと主張する。

◆2010年刊：「経済成長なき社会的発展は可能か？」セラジュ・ラトゥーシュ著

ポスト・グローバル時代の新たな潮流として、経済成長なき社会発展＝脱成長を提唱しており「新しいコミュニズムの仮説」として示されている。脱成長社会とは生産手段の私的所有と資本主義を廃止しなくても資本主義の精神である成長への執着心を放棄すれば、社会は徐々に資本主義的なものではなくなっていくと主張している。

◆2012年刊：「脱資本主義宣言」鶴見済著

グローバル資本主義が我々の暮らしを蝕んでいる諸相を明らかにしている。「脱資本主義」を提唱しているが、筆者は「とりあえず理想とする方向に向かってみて、その先のことはその都度考え

ればいい」というスタンスだ。

◆2012年刊：「縮小社会への道」

縮小社会研究会著

今日、サステイナブルという言葉が多く使われているが、これは企業、市民にとっても資源の消費、環境の悪化を続けることに他ならない。子や孫が健康な生活を持続するためには今の資源消費を縮小するしかない。縮小という言葉を使っているが、これは量的縮小であって、質的な後退ではない。

◆2012年刊：「それをお金で買いますか」

マイケル・サンデル著

“主治医の携帯電話番号：年に1500ドルから”。2008年の金融危機に至るまで、市場勝利主義においては、売買の論理は、もはや物的財貨だけでなく生活全体を支配するようになっている。価値あるものが全て売買の対象になり、貧富の差の拡大は単に金銭的な差以上の意味を持っている。生きていく上で大切な物の中には、商品になると腐敗したり墮落したりするものがある。

◆2016年刊：「地球を『売り物』にする人たち」

マッケンジー・ファンク著

エピローグより：気候変動は科学や経済、あるいは環境の問題と位置付けられることが多く、人間の正義の問題と位置付けられることが少なすぎる。(中略) 今後富を得られる人は大勢いるだろう。成功に酔いしれる人も多いだろう。そして、世の中はそのまま回っていく。だがそうなる前に、私たちはみな自分が手にしているものの正体をしっかり理解すべきなのだ。

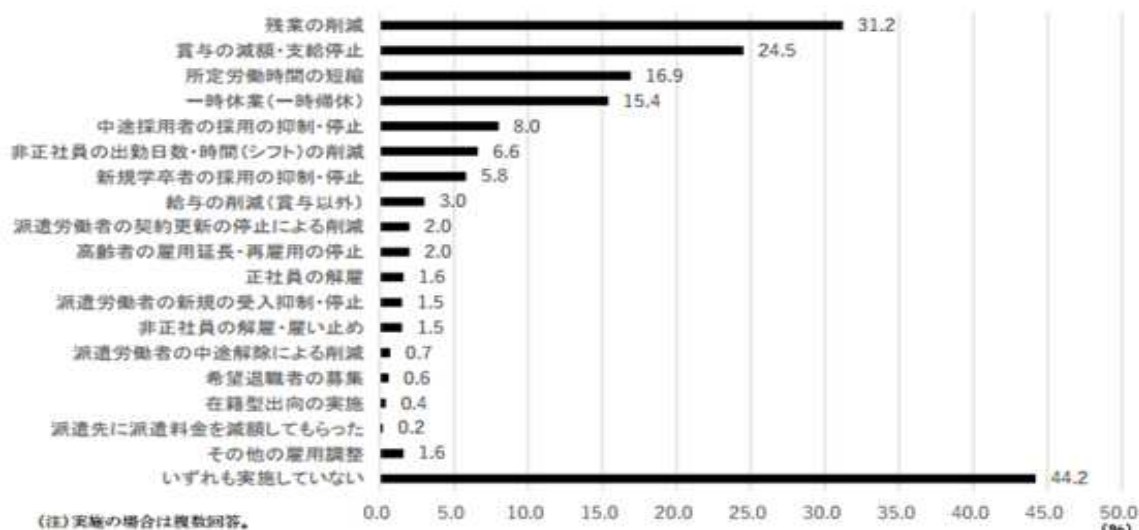
第1と第2が違うとすると、コロナ禍が大きく影響していると推察する。「人新世の『資本論』」の上梓は2020年9月で、新型コロナ感染者が拡大傾向にあるとともにその弊害が顕在化してきた時期である。感染者の拡大は、雇用調整に踏み切

る局面を生じさせ、その結果として経済的不平等の問題を浮き彫りにした。総務省の労働力調査（2021年4月）によると、就業者数が9年ぶりに減少している。また、労働政策研究・研修機構の「第3回 新型コロナウイルス感染症が企業経営に及ぼす影響に関する調査」（2021年2月）では下図のように5割以上の企業が雇用調整を行っている。そのうえ、活動や移動の自粛を強く要請し、皮膚感覚になじまない非日常が日常化したのである。

「人新世の『資本論』」を手にする若者にとって、こうした状況は時代閉塞感、将来展望の喪失感を

覚えさせたのではないだろうか。これらの強い負のインパクトを打破し、将来展望を切り開くには既存の言い古された提起では心もとなかったのではないか。国内外で高く評価し実践が重ねられているSDGsを「大衆のアヘンである！」と断言し、「脱成長コミュニズム」と方向性を示した「新マルクス主義」に“一条の光”を見たのではないだろうか。今後、「新鮮さ」を感じた読者諸氏がどのように「脱成長」「生産手段の共同管理」を民主主義の下で実現し、資本主義を解体していくのか注視していきたい。

*** 2020年4～5月から2021年1月にかけての企業の雇用調整の実施状況**



出典: 労働政策研究・研修機構「第3回 新型コロナウイルス感染症が企業経営に及ぼす影響に関する調査」(2021年2月)

●そもそも資本主義とは？

「人新世の『資本論』」もそうであるが、多くの資本主義の弊害を述べた書籍で資本主義とはどのような経済システムか、その今日的定義を明らかにしていない。もはや、自明のことで取って言及していないのか。

広辞苑では資本主義を「封建制下に現れ、産業革命によって確立した生産様式。商品生産が支配的な生産形態となっており、生産手段を所有する資本家階級が、自己の労働力以外に売るものをも

たない労働者階級から労働力を商品として買い、それを使用して生産した剰余価値を利潤として手に入れる経済体制」と説明している。マルクス経済学における定義であり、現在の資本主義内で生きる我々としては違和感を持つ定義である。

経済のソフト化や高度情報化社会においては「生産」の意味が大きく異なってきていることをはじめ、資産家の賃金労働者や株主の賃金労働者、資産の少ない企業経営者などの出現もある。これらを踏まえると特に資本家階級（有産階級）と労働

働者階級（無産階級）と階級として二分することについては妥当な定義とは思えない。資本主義の再定義については佐和隆光氏による「資本主義の再定義」などの著作をはじめ多数検討されてきている。それらの中で、重田澄男氏は著書「資本主義とは何か」でその定義を「資本家や企業が賃金労働者を雇って、利潤獲得を目的として行う近代社会特有の生産形態、ならびに、それを基礎とした経済構造、社会体制」と定義の試案を示している。資本と賃労働の関係、利潤追求、生産形態、社会体制への波及など現代資本主義の根幹を的確に反映しているといえよう。

●進行する現在の資本主義は？

しかし、この定義はかつての「社会主義対資本主義」という体制間比較においては分かり易いが、ソ連邦崩壊後は「資本主義対資本主義」という同経済体制における優劣が大きな問題になってきている。

1980年代から世界を席卷したのが新自由主義思想をベースにした市場原理主義である。アダム・スミスの「神の見えざる手」を徹底的に推し進め、国家の介入を全面的に否定する。市場原理を歪めるとの観点から福祉や社会保障政策、累進税制には批判的な立場をとり、可能な限り規制の緩和を求める。資本主義の「負の側面」の元凶の多くは市場原理主義によるものと考えられ 2008年のリーマンショックにより下火にはなっているが、決して根絶されたわけではない。日本においても現閣僚、内閣参与に未だに新自由主義信奉者が存在する。

リーマンショック後に注目され、復権したのがケインズ主義である。資本主義の基本原則の一つである自由に対して一定の制限をかけることで資本主義の暴走をとどめ、資本主義の存続を図る。政府の介入による完全雇用や、社会保障、所得再分配を積極的に支持している。しかし、この 20年、格差や環境汚染などの資本主義による負の側

面の抜本的な解消には至っていない。また、インフレや財政赤字などの副作用をもたらした。

●新たな資本主義？多資本基盤型資本主義

こうしたことから新たな資本主義のあり方が模索されてきている。新マルクス主義による変革志向に比べられないほどの大きなうねりになっていると考える。それらの動向は資本主義の「再構築」を考えるうえで重要であるが、紙幅の関係から今後示したい。ただ、この間、「統合報告書」のコンサルなどを進めていく中で、新たな資本主義のあり方を示唆するモデルに出会ったので、まずはこのモデルを紹介したい。それは、IIRC（国際統合報告評議会）が発行する「国際統合報告フレームワーク」にある「価値創造プロセス」（通称オクトパスモデル）である。このモデルは、資本主義のあるべき姿を意図して記載されているものではないが、私は新たな資本主義「多資本基盤型資本主義」の枠組みと読み変えている。

ここでは、投入する資本は従来の財務資本と製造資本だけでなく知的資本、人的資本、社会・関係資本、自然資本の 6 資本をあげている。これらをインプットし企業は事業活動を展開して製品・サービスなどのアウトプットを生み出し、同時に財務提供者への財務リターン（財務価値）やステークホルダーや社会全体に対する社会価値や環境価値などのアウトカムをもたらす。このプロセスを経て、各資本の増減や資本間の転換（財務資本によって人事研修などを行い、人的資本を厚くするなど）が行われる。特に注目するのは、人的資本、社会・関係資本、自然資本を「資本」として位置づけて組み入れていることだ。これらは、人間が健康で文化的な生活を送るための基盤的な要素でありこれら「資本」の毀損は許されない。

（注）社会・関係資本：共有された規範・価値、ステークホルダーとの信頼や対話、ブランド、事業を営む社会的許諾

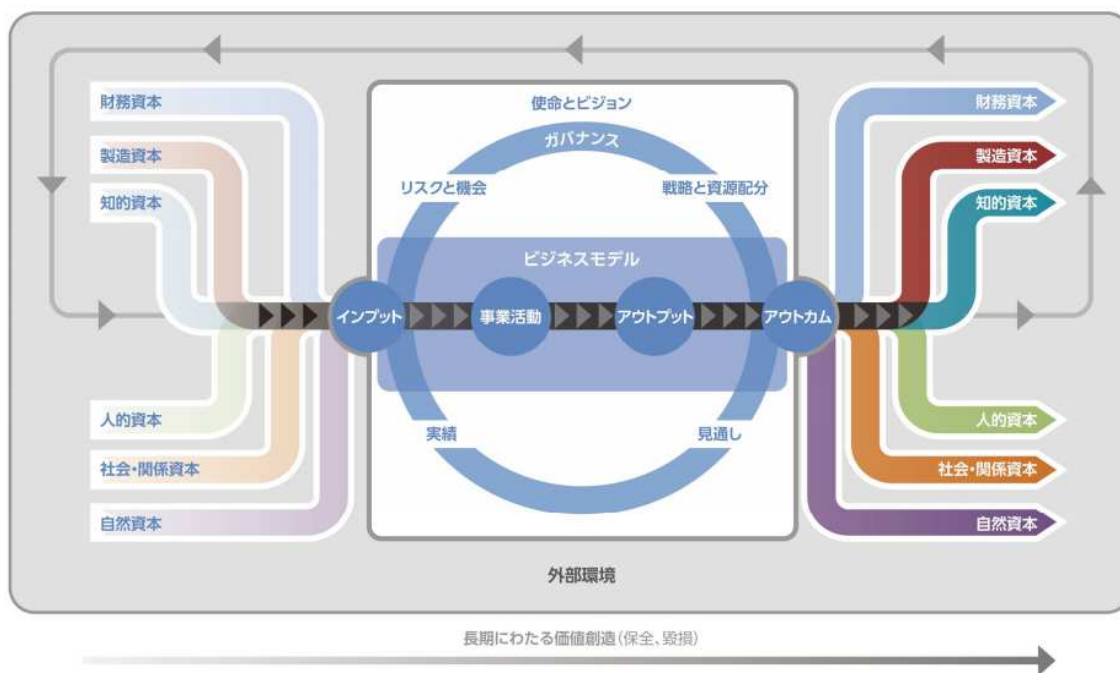
このモデルでは価値創造が持続的に行われるこ

とが求められていることから、財務提供者や企業経営者は各資本の増減や資本間の転換を注視することが求められる。他の資本を無視し、特定の資本のみを最大化することは許されない。利潤を最大限追求し肥大化させても、人的資本や自然資本、社会・関係資本を犠牲にすることは企業の長期的な諸価値の最大化につながらないからである。

このような視点に立てば、6つの資本は我々の経済社会の持続可能性を担保するものと位置付けることができる。そのためには、各資本の増減や転換の注視を企業内部だけに任せるのではなく、

外部からの監視も不可欠になってくる。岩井克人氏の「21世紀の資本主義論」には「あのアダム・スミスの『見えない手』が曲がりなりにもはたらかせることができたのは市場経済を『不純』にするさまざまな『外部』の存在が、その本来的な不安定性の発現を一定程度おさえてきたからなのである」と述べている。外部からの監視者こそがこの「市場経済を『不純』にするさまざまな『外部』の存在」ではないだろうか。それでは、誰が監視者の任務を果たすことができるのか。(つづく)

*** 価値創造プロセス (オクトパスモデル)**



出典: IIRC (国際統合報告評議会)が発行する「国際統合報告フレームワーク」

「私の再エネライフ」ささやかな自然エネルギーと暮らす

循環研理事 大島浩司

40年間のサラリーマン時代最後の仕事が、環境とCSRでした。ISO14001の構築・運用が仕事でしたが、具体的な施策に重点を置いた取り組みを目指し、レスペーパー・ごみ削減・省エネから始め、清掃活動・ペットボトルのB2Bリサイクル推進のため回収機の導入、エコキャップ運動等出来る事はすべてやってきました。とても充実した10年でした。

そこで、定年後は仕事で培った知恵と知識で社会に貢献すべく各種団体や企業に所属、循環研もその1つです。

主たる活動にはグリーンピープルズパワー株式会社があり、再生可能エネルギー100%の社会を作ることを目指しています。太陽光発電を主に再エネ発電所の開発と、その電力の販売を行っています。そして私たちのユーザーの皆様にも日本の電力政策を考えていただくこと「考えるユーザー」になってほしいと思っています。

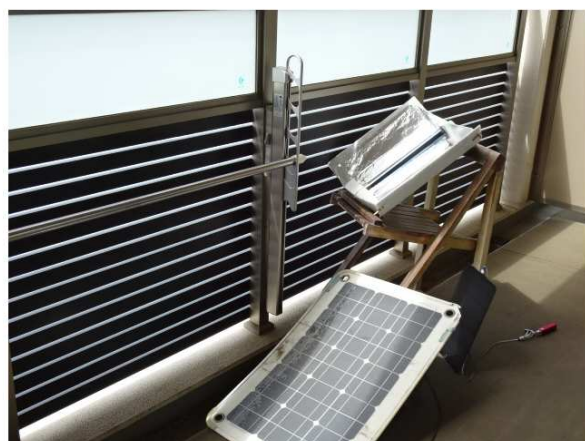
そして2019年には地元所沢の仲間と設立した「所沢市民ソーラー」は、この地で初めての市民参加型ソーラーシェアリングを開始しました。一步一步ですが再エネを増やすことができ、CO2削減に繋がると思うと心豊かになります。

さて、こんな私の趣味はささやかな太陽光エネルギーを利用する事です。晴天の日は朝日と共にベランダに出て、「エコ作」とソーラー蓄電システムを設置します。

「エコ作」は本当に素晴らしい、500MLの水が約1時間で沸騰します。そのお湯で二人分の朝のコーヒーを淹れて飲む、自然エネルギーをいただくという感じが味わいを深くします。ソーラー蓄電システムは「タイニーライトナノ発電所」と言います。75,000mAの電力を蓄える事が出来る

40Wのソーラーパネルとバッテリーのセットです。これで蓄電した電気はスマホや携帯電話、小型テレビ等の電源として使っています。この「タイニーライトナノ発電所」は非常時にも役立つ優れたものです。皆さんにもお勧めします。

SDGsの7番「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」のゴールに向け、一市民としてこれからも頑張ります。



エコ作とソーラーパネル



ベランダでエコ作とソーラー発電

温暖化対策ノート 2021(その2)

循環研理事 榎屋治紀

日本政府のエネルギー政策が大きく変化しようとしている。やっとパリ協定に沿って二酸化炭素の排出を削減することになってきた。

1. 気候変動サミット

4月22日、バイデン米大統領が世界の首脳に呼びかけて気候変動にかんするオンライン会議を行った。英、独、仏、ロシアも含めて40の国や地域が参加した「気候変動サミット」である。

このサミットで各国は大きな削減目標を示した。米国は世界2位の排出国だが、オバマ政権当時は2025年までに2005年比26~28%削減と言っていたのだが、バイデン大統領は、米国は2030年には2005年比50~52%減らすと表明した。英国のジョンソン政権は2035年に1990年比78%減の目標、EUは2030年までに90年比55%以上減らす計画を掲げた。

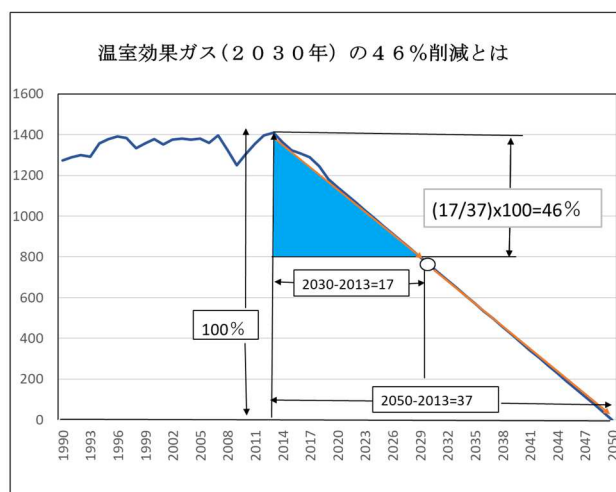
日本からは菅首相が参加して、「2030年には2013年比で46%削減する」ことを発表した。菅首相は昨年10月に「2050年カーボンニュートラル宣言」をしていたから、それと整合する目標が必要であった。それまでの日本の国際的な公約は2030年には26%削減としていたから、大きな変化である。

各国の基準年が異なるのはこまりものだ。EUのように1990年比というのが京都会議以来のもっとも誠実な表現なのである。これ以外は、排出量の大きな年を基準にして削減幅が大きいように見せかけている。

2. 2030年46%削減とは

ところで、2030年に46%の削減というのは実は単純な幾何学の計算である。2013の排出量から2050年のゼロになるまで直線を引いて2030年のところを求めると46%減になる。ふたつの

直角三角形を考える。ひとつは高さが100、底辺が2050-2013=37、もう一つは高さがx、底辺が2030-2013=17とする。二つの三角形が相似だとすると、 $x = (17/37) \times 100 = 45.9$ となり、2030年に46%になることがわかる。



このように2030年の46%削減の数字は外形的なものであり、その詳細が問題である。人口が少しずつ減少しているが、産業の活動度も減少してくるだろう。これに省エネを加えれば、エネルギー需要そのものが小さくなるはずである。現在、鉄鋼業では高炉の休止が進展しているが、産業界の石炭利用を抜本的に減らすことになるだろう。太陽光や風力や電気自動車を増やして、CO2排出が大きい石炭火力発電を廃止する必要がある。そして経済性がなくなった原子力をゼロにすることだ。

3. 洋上風力

日本風力発電協会と建設会社が、経済産業省と会合を持って、2030年には洋上風力の目標値を10GWとしたようだ。1KWあたり50万円として、5兆円のマーケットが突如として確立されたという。日本では洋上風力はまだ数えるほどしかないが、ヨーロッパでは、かなりの規模で開発が

進展している。日本では風車のブレードの生産までは無理のようだが、タワーの建設は造船会社や建設会社のテリトリーだし、発電機や減速機などのメカ類は機械産業の活躍の場である。関係者は大きな産業になる可能性を感じ取っているようだ。

4. 2050年自然エネルギー100%シナリオ

前回の循環研通信でも紹介したように、システム技術研究所では、WWFジャパンの依頼を受けて、2050年自然エネルギー100%シナリオをアップデートする作業を行った。その内容は以下のようになる。2030年には、石炭火力を廃止して、ガス火力+太陽光+風力で供給する。電力の50%が自然エネになる。CO₂排出量は2013年比で50%削減できる。そして2050年には、エネルギー需要は人口減少で80%に、効率化で70%に、総合すると60~70%に縮小する。すでにEV（電気自動車）、LED照明などの実用化が進展しコスト低下が生じている。鉄鋼・セメント・化学・製紙の活動が約60%に減少するが、情報機械産業が140%に増加してGDPを支える。これは産業構造の大転換である。この需要に自然エネ100%の供給を行って、CO₂排出をゼロにすることができる。太陽光360GW、風力153GWになり、この発電コストは2050年には1kWhあたり7~8円に低下する。

5. 100%シナリオの重要なポイント

自然エネルギー100%というと、費用が大きい、停電する、雨天無風が長く続いたらどうするか、などの質問が生じる。その答えは以下である。

1) 「電力需要A」を小さくすること

ある時刻に必要な簡単に時間シフトができない電力需要がある。これを「電力需要A」と呼ぶことにする。それが現状の送電線から供給されている電力と考えれば、現状の電力需要パターンで検討できる。一般に電力シミュレーションで扱われるのはこの「電力需要A」である。そしてこの

「電力需要A」は、人口の減少、産業構造の転換、効率の向上によって減少すると考えられる。

2) 熱燃料需要にも電力を供給する

エネルギー需要の多くは、電力ではなくて高温から低温の熱や輸送用の燃料である。自然エネルギー100%シナリオでは、この需要にはバイオマス、太陽熱だけでなく太陽光や風力で発電した電力を供給する。これを「電力需要B」と呼ぶ。これは時間的にシフト可能な電力需要であり、太陽光や風力で発電した電力から「電力需要A」を引いた残り=余剰電力から供給される。「電力需要B」は、天気予報やデマンド・レスポンスなど生産計画によって調整可能な電力需要であり、変動する発電に対応することが可能である。

3) 雨天・無風時の対策

沖縄を除く全国の送電網をつないでみると、各地域の気象データの変動は平滑化されて、発電が安定になる。実際にAMEDAS気象データを用いてシミュレーションを行ってみると、1年のうちわずかだが無風状態が発生することがある。風力は冬に大きく、夏に小さい。厳しいのは6~7月の梅雨どきで無風が続く場合である。ここでも発電量は「電力需要A」の1.8倍もあるので、電力不足になる確率はかなり低くなる。それでも電力が不足する時には揚水発電とバッテリーを蓄電設備として利用する。

4) 蓄電装置

揚水発電は、原子力の夜間の発電余剰を蓄電するために建設され、現状では26GW、10時間で260GWhが存在する。これにバッテリーを付加するのだが、その必要規模は、発電量と「電力需要A」によって変化する。年間発電量1000~1100TWh、「電力需要A」が600~700TWhのとき、余剰電力は400~500TWhになるが、このとき必要なバッテリーは300GWh程度である。この規模が大きいとコストが大きくなるが、それには以下に述べるような対応方法がある。

5) コストは大きいのか

太陽光は 10 万円/kW で 400GW (4 億 kW) とすると 40 兆円、風力は 20 万円/kW とすると、150GW (1.5 億 kW) で 30 兆円になる。この設備単価は 2020~2050 年のおおよその平均である。バッテリーは 2 万円/kWh として、300GWh (3 億 kWh) で 6 兆円になる、バッテリーは 2030 年以降に EV (電気自動車) が毎年 300 万台も廃車になるので、性能 80% に低下しているが格安で中古バッテリーが入手可能になる。使用中の EV をそのままグリッドにつないで蓄電用に利用する方式より不安が少ないと思われる。

6. 費用はどのくらいかかるのか

さてこのような大転換にかかる合計費用を計算してみた。前述したように電力供給にかかる費用とは別に、省エネと電力関連 (水素生産用水電解装置、送電線など) の費用がある。省エネ+自然エネ+電力関連の 30 年間の設備投資は 254 兆円、運転費用はマイナス 276 兆円、正味費用はマイナス 22 兆円となる。この運転費用というのは、このままゆく自然の成り行きシナリオ (BAU シナリオといわれている) との差額である。BAU シナリオでは現状のエネルギー供給構成が維持される場合であり、省エネによる資金回収や自然エネルギーのコスト低下がない場合との比較で生じる。運転費用がマイナスになるのは、資金が回収され有効な投資であることを示している。毎年 17 兆円に達する化石燃料の輸入費用がそのまま 30 年間続くと 500 兆円を超える資金が海外へ流出してしまう。このシナリオではそうする代わりに国内の省エネや自然エネルギーに投資するわけである。2020~2050 年の設備投資は年間 8.5 兆円、この期間の年間 GDP は平均で 750 兆円であり、その 1.1% に相当する。

7. カーボン・バジェット

さて、それで温暖化問題は解決するのだろうか？

すでに地球上では 1°C の気温上昇が生じている。太平洋の海面温度が上昇し、台風が猛威を振るい、猛暑日が増加し、熱中症が広がり、スキー場の閉鎖が増えている。パリ協定では 21 世紀中の温度上昇を 2°C、できるなら 1.5°C に抑えることが目標になった。2013 年の IPCC の第 5 次報告書によると、その許容される排出量の上限が判明している。その上限値は「カーボン・バジェット」という言葉で表されている。日本語では「炭素予算」である。許容する量とは言いたくないのでこういう表現になっているようだ。

IPCC 第 5 次報告書によると、すでに産業革命以来、地球上では 2010 年までに温室効果ガスを CO₂ 換算で 1 兆 9000 億トン排出している。そして 2010 年から 2050 年までに世界全体のカーボン・バジェットは、CO₂ 換算で、2°C 目標なら 1 兆 1200 億トン、1.5°C 目標なら 5600 億トンである。この数値は過去の累積排出量が気温上昇と比例関係にあることから導き出されている。これを日本の場合にあてはめたらどういうことになるか。世界全体の排出量から日本のカーボン・バジェットを求めるにはどうするか。

簡単な方法は人口比で配分することである。世界人口に対する日本の人口の割合は 1.67% である。この方法は途上国を含めてそれぞれの人間が平等であることにもとづいている。1.5°C と 2°C 目標について日本のカーボン・バジェットを求めると、93 億トン、174 億トンになる。2030 年に 46% 削減の計画で、2050 年までに排出量をゼロにすると、2010-2050 年の期間の日本の温室効果ガスの排出量は 309 億トンになる。このままでは、IPCC のいうカーボン・バジェットを超えてしまう。手遅れなのである。ほかに手はないのか。最終的には空気中から二酸化炭素を抜き出すことが残っている。それには再生可能エネルギーを使って、空気中の二酸化炭素を取り込んで産業資材に変換する DAC (ダイレクト・エア・キャプチャ) という方法がある。

環境俳句

循環研理事 及川陽子

皆さまはコロナウィルスのワクチン接種はお済でしょうか？私の住む横浜は対策の不備で、全国的に見ても、かなりの遅れをとっています。

私は接種券が到着して（2021.5.14 に着）翌週の月曜日の受付開始時間から 30 分ほどでネットから予約は出来ましたが、一回目の実施日は 7 月 8 日と 2 か月近くも先となりました。ネット対応が出来ない方は電話予約となりますが、電話など一日中かけても全く繋がりません。何十万人もの人を積み残して、さらに次の世代の人に接種券を発行するというお粗末さ加減は、まったく開いた口がふさがらない実情です。年齢層の高い人達に過度の負担をかける対応に横浜市民は怒り心頭です。

さて今回の俳句のイロハは、これまでにお伝えした内容を踏まえ、私の俳句の師である寺門土果先生の信条に従い俳句の初歩からもう一度、確認してみてください。

- 1、遊びは自己を拓く
- 2、俳句は言葉遊び、遊び心の詩的表現である
- 3、俳句は遊びの美学である
- 4、遊びには約束事がある
- 5、俳句には俳句の約束事がある
 - *十七音の韻文 *季節感
- 6、読む人に伝わらなくては意味がない
 - *平易な表現 *季語の効用
- 7、美的心情を、言葉（万般の事物）を使って姿にする（心情は事物に託し、読み手に投影する）
 - *心情は千種万様。それを伝える事物もさまざま
 - *俳語（句に使う言葉）の選択
- 8、大まかな分類
 - *天然・人事

ぜひ、俳句を詠むときの参考にしてください。

夏号投句 お題は「梅雨」（梅雨という言葉は使用しなくても良い）夏の季語を使ってです。

俳句の講評や添削は「寺門土果」先生にお願いしております。添削は句作の折に参考にして下さい。

牛閑

水溜り雲をかき消す水馬

評) 水馬は水面にいるので、水溜りは不要です。

添削) 梅雨晴間あめんぼ雲を乱しけり

*水溜りが主役なら

水馬の雲蹴散らすや水溜り

足跡を残して早き蝸牛

評) 蝸牛の歩み「早い」と捉え意表をつく句が幾つかあります。

足元へいつ来たりしよ蝸牛(一茶)

ででむしの行がたしらずなりにけり (蕪村)

牛閑さんの句は、のろいかとっていて、ちょっと目を離しているうちに消えていて、その足跡(そくせき)だけが残っていたという句ですね。リズムも「さみだれを集めて早し最上川」と同じで、いい調子です。足跡は残ったものなので、「残して」は不要。

三味線の音色狂わす梅雨の蝶

評) 「あれ、蝶が」と目をうばわれて音をはずしたか、間をはずしたか。ちょっと雨が止んだ間の粹な風情。

添削) 三味の音をちょいと狂わせ梅雨の蝶

*梅雨(夏)も蝶(春)も共に季語ですが、「季重なり」といつて咎めるのは杓子定規。あくまで

「梅雨の蝶」であって、単なる春の季の「蝶」ではありません。

北竜

梅雨の空北の大地は山笑う

※関東の五月雨(梅雨)の季節は、北海道では春の多彩な若葉が萌える季節。「山笑う」「春紅葉」と呼ぶらしいです。

評)「山笑う」という代表的な春の季語をもってきたのは、北海道は梅雨がないことを踏まえて、こちらでは「梅雨の空」だが、向こうでは「春の空だ」と言っているわけですが読者にどこまで通じるか、賭けですね。その地方だけの特別の季語を地貌季語といますが、「山笑う」「春紅葉」は全国共通の季語です。梅雨はなくとも、本州の梅雨の時期は、北国では春の様な景色でもそれが北国の夏ではないでしょうか。とすれば「山笑う」では誤解されます。

添削) 梅雨どきの北大地の春模様

五月雨の五輪への道かたつむり

※コロナ禍の五輪開催準備の議論はジメジメ、のらりくらりです。

添削) 五輪への道さみだれて蝸牛

消えかける月食の夢隠す雲

※5月26日、スーパームーンの皆既月食。今年はいろいろな見たい夢が隠されてしまうような。ちなみに次回のスーパームーンの皆既月食は2033年10月8日だそうです。

添削) 雲のうえ月はひっそり欠けにけり
人嫌ひ雲隠れする蝕の月

爽竜

立あおい色鮮やかに天を衝く

評)「天を衝く」勢いで下から咲き登る立葵ですね。大河ドラマのタイトル「青天を衝け」を振ったのでしょうか。「色鮮やかに」は、鮮やかさが伝わる具体的な色を示した方がいいでしょう。

添削) 紅りくぞく天を衝きをり立葵

緑増す谷戸の早苗に風さやか

評)「緑」「早苗」が夏の季語、「さやか」は秋の季語。しょうしょう盛りすぎです。

添削) 風あらば色ます谷戸の早苗かな

眩しいな白紫陽花に足止まる

評) 確かに白紫陽花は眩しいほどです。わたしのいえの近所の白紫陽花は華々しく輝いていました、今は薄緑に変化しています。素直な句です。いろいろ表現を変えてみてください。

添削) 足とまる白紫陽花の眩しさよ
足止めて目を瞬かせ白紫陽花

私(俳号 霧乃)も一句

コロナ禍や鬱憤晴れぬ梅雨の闇

次回秋号のお題は「夜長」(夜長は使わなくてもよい。秋の夜に思うことなど) 投句の締め切りは9月23日。投句は一人3句迄でお願いします。

春夏秋冬

2021.4

僕は雨が嫌いではない。雨の日は何か落ち着く。天気の良い日は、何か外で元気に活動していなければ、との強迫観念に襲われるが、雨であれば「いやはや」しょうがないと一人呟き、この怠惰な自分に納得する。今日は雨。誰に何と言われても一日「ぼ～っとするぞ」、の気分だ。

雨は古来より農耕生活をする日本人にとって、四季折々様々な思いが込められている。春雨（はるさめ）に始まり、桜の咲くころの桜雨（さくらあめ）、旧暦五月の長雨が五月雨（さみだれ）で梅雨（つゆ）に入り、半夏雨（はんげあめ）、夕立がきて夏本番となる。一時的に止んだりする秋の弱い雨は時雨（しぐれ）だ。そして、雹（ひょう）霰（あられ）交じりの氷雨（ひさめ）が降り、厳しい冬に突入する。雨の読み方は色々あるのだなあと感じる。

今は梅雨真っ只中、梅雨にも色々な梅雨がある。「菜種梅雨」は菜の花が咲くころの長雨、「走り梅雨」「迎え梅雨」は梅雨入り前の長雨、「戻り梅雨」「帰り梅雨」は梅雨明けのころに再びやってくる長雨、「送り梅雨」は梅雨の終わり雷を伴う雨をいう。更に、梅雨の時期ほとんど雨が降らない「空梅雨」「照梅雨」もある。梅雨が終われば本格的な猛暑に突入する。やがて夏が過ぎて涼しくなり、秋の長雨、秋雨（あきさめ）になる。これを「秋入梅（あきついで）」という。昔の人も長雨には「ほとんど」うんざりしたのだろう。

ついでに雨の降り方をオノマトペで表すと、「ごうごう」「ざあざあ」「こんこん」「しとしと」「ばらばら」「ばらばら」「しょぼしょぼ」「ぼつぼつ」「ぼつりぼつり」等々、まだまだありそうだ。梅雨の長雨、暇つぶし。ステイホームを強いられる中で、雨についてちょっとは物知りになったかもしれない。



恵みの雨もあれば、迷惑な雨もある。家の中でぼ～っとするぞとは言っても、梅雨時の「じめじめ」「むしむし」では流石にうんざりする。さて、梅雨が明ければ今年の夏も猛暑だろう。オリパラは無事に終わるのか。コロナはいつ収束するのか。衆院選はどうなるか。難題山積みの日本列島。「しょぼしょぼ」にならないことを願うのみだ。

雨紫陽花七色雫万華鏡

文/写真：風月（M）

循環型社会研究会（Workers Club for Eco-harmonic Renewable Society）とは

循環型社会研究会は、10年来有志で環境問題現場でのフィールドワークを中心に活動しておりましたが、2002年7月3日に特定非営利活動法人の法人格を取得しました。

「次世代に継承すべき自然生態系と調和した循環型社会のあり方を地球的視点から考察し、地域における市民、事業者、行政の循環型社会形成に向けた取組みの研究、支援、実践およびそのための交流を行う」ことを目的として活動しています。

循環研通信は年に4回発行しています。広く原稿を募集しています。

環境俳句の次回のお題は「夜長」です。次回の締切は2021年9月23日です。

循環研通信/JUNKAN No.61 2021年7月発行

発行人：久米谷 弘光（循環研代表） 編集責任者：槌屋 治紀（循環研理事）

特定非営利活動法人循環型社会研究会 〒104-0031 東京都中央区京橋 3-1-1 東京スクエアガーデン 14階

株式会社ノルド内 Tel. 03-6427-9768 Fax. 03-6745-3301

E-Mail: junkan@nord-ise.com HP: <http://junkanken.com/>